

すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報

第288号
2026年7月



一般社団法人
大学女性協会



Photo by Irene Gashu

特集 第15回定時会員総会・創立80周年記念行事の報告

会長挨拶 新理事紹介.....	2	80周年記念講演会・懇親会報告.....	8
議事抄録、総会開催報告.....	3	全国総会報告.....	9
2026年度役員および担当委員会・委員長一覧		2025年度国際奨学生報告会 CSW70 報告	10
UWAsia との合同バスツアーに参加して	4	「次世代につなぐ会」3月20日 報告.....	11
支部長会報告		第3回若手女性科学者海外研修助成事業報告	
第11回 UWAsia 総会報告	5	2026年度公開シンポジウムのご案内.....	12
第28回大学女性協会守田科学研究奨励賞授賞式...	6	パトリシア募金寄付者ご芳名、理事会から	
受賞者研究概要.....	7	国内奨学生募集要項、新入会員	

大学女性協会80周年を迎えて今後を考える

会 長 長谷川瑞穂



2026年は大学女性協会80周年記念の年ですが、天候に恵まれ、一連の行事を無事終了できましたのも会員の皆様のお陰と、新旧理事、監事一同感謝申し上げます。定時会員総会、80周年記念行事を5月17日（日）に皇居の新緑を見下ろすKKRホテル東京で行うことができましたのも先輩諸姉のお陰です。午前の定時会員総会は、9時30分現在79名の出席者と236名の議決権行使書提出者で成立し、第1、2、3号議案は滞りなく可決、承認され、続いて3件の報告がなされました。新理事のうちの9名、監事2名は2期目ですが、5名の新理事はいずれも理事経験のあるベテランです。第2号議案では会長も承認され、私が2期目の会長を引き受けることになりました。大変な時期ですが好機と捉えて前向きに進めていきたいと思っておりますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。16日（土）午後の支部長会は本部からの説明の後、グループに分かれて意見交換を行いました。17日（日）午後の80周年記念行事は、加藤陽子氏の講演で始まりました。99名の聴衆は1930年代、戦前に続いて現代の日本の状況の説明と分析に聴き入りました。続く全国総会では、旧理事有志で作成した80周年記念誌「HERitage 80」を用いて、創立以来の本会の大まかな歴史、過去10年の本会の活動についての説明がありました。80周年記念誌が国際ネットワーク委員会の協力を得て日本語と英語のバイリンガルで刊行できたことは幸いでした。一部記載漏れがありました点につきましては、追加で対応させていただきます。17時からは懇親会が始まり、中村（久）、鷺見、加納、岩村元、前会長による挨拶に続き、海野氏によるチェロ演奏での優しい音色を楽しみました。食事は洋食のコースで、アルコール類も出て会は盛り上がりしました。各支部紹介の後、最後に次期定時会員総会を引き受け下さいました飯田茨城支部長より挨拶がありました。一連の行事の準備などご協力いただいた東京支部およ

び委員会の皆様、そしてバザーを開催されました収益事業委員会の皆様に感謝申し上げます。

翌18日（月）の研修旅行はUWAsiaの外国からの参加者と会員が交流し、日本文化を楽しんだ後、KKRホテル東京で歓迎パーティが開催されました。研修旅行をお世話いただいた委員会の皆様にお礼申し上げます。19日（火）からいよいよUWAsia総会が始まりましたが、参加者は6か国から22名、JAUW会員33名、合計55名でした。「ウェルビーイングと環境」のテーマのもと、日本とは異なる事象を扱った多様な研究発表があり、大変有意義な会でした。20日（水）のfarewell partyは、津軽三味線の演奏、唄、演奏者の英語のトーク他、ネパールの参加者が演奏に加わったり、ザンビアからの参加者が踊りだすなど、大変盛り上がりしました。3日間対面で外国からの参加者の皆さんと交流し、3年後のネパールでのUWAsia総会が楽しみになりました。いろいろときめ細かく準備していただいた国際ネットワーク委員会の皆様に感謝いたします。

さて、話は変わりますが、理事会では移行法人終了後の大学女性協会を考えるにあたり、時代に合った特色のある会にできたらと考えております。移行法人終了後の本会の在り方に関しては、主に支部を通じて会員の皆様の御意向を伺いながら進めていきます。今後は2012年に一般社団法人の移行法人となったいきさつや、現在の大学女性協会の資金や会員の状況を整理し、考えていただく材料としてお示ししたいと思っています。2027年11月には新たな理事会に向けての役員選考がありますので、2027年5月の定時会員総会では方向を決定しなければなりません。

いずれにしても移行法人終了後の資金が必要であり、そのために引き続きパトリシア募金を続けますのでご協力をお願いいたします。また会員増強のため、新入会員を是非ご勧誘ください。

最後に大学女性協会のさらなる発展に向けて会員の皆様とともに歩み続けたいと思います。

附：最後に私事ですが私個人のHPのQRコードを載せておきますので、ご興味のある方はご覧ください。



2026年度 理事・監事

後列左から

端本和子広報担当理事 木口京子監事 柏木京子財務 鈴木千鶴子副会長 松村和子事業担当理事 山下いづみ CIR・国際ネットワーク、国際支援担当理事 片岡雅子総務 岡本美和支部担当理事 濱松若葉総務 渡部由紀子会計

前列左から

加納孝代監事 城倉純子調査・研究、生涯学習担当理事 中山正子副会長 長谷川瑞穂会長 今野美智子奨学奨励担当理事 遠藤理枝支部担当理事



第15回定時会員総会議事抄録

日 時：2026年5月17日（日）9：30～12：10

場 所：KKR ホテル東京（東京都千代田区大手町1-4-1）

1. 総会成立確認：濱松若葉理事より2026年5月17日午前9時30分現在の出席者数79名、議決権行使書提出者236名、出席者合計315名の報告。定款に基づき、正会員532名の過半数以上の出席により総会の成立を確認。

2. 開会の辞：長谷川瑞穂会長により開会の挨拶の後、逝去会員8名の冥福を祈って黙祷。

3. 議長選出：定款に基づき、長谷川瑞穂会長が議長となる。

4. 書記選出：牧島悠美子理事、濱松若葉理事を選出。

5. 議事録署名人選出：議長の他、秋光正子理事、鈴木千鶴子理事を選出。

6. 議事

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：渡部由紀子理事より議案書に基づき、貸借対照表・正味財産増減計算書及び内訳・財務諸表に対する注記について説明。続いて木口京子監事より業務及び会計監査報告の後、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。

第2号議案 理事14名選任、ならびに会長候補者の選出の件：議案書に基づき牧島理事から提案理由、役員選考委員会の田邊光子委員長から理事候補者推薦についての説明・報告の後、議長が議場で同議案を諮った。議場の会員及び議決権行使書の賛成236名の承認を得て選任可決された。なお、被選任者会員は全員就任を承諾した。

第3号議案 監事2名選任の件：議長は、監事の選任のため、定款第5章第22条第1項に基づき、定時会員総会議案書記載の監事候補者の選任を議場に諮ったところ、出席者85名の賛成、議決権行使書の賛成票236名、合計321名の賛成となり正会員の過半数の賛成で選任可決された。なお、被選任者は、全員就任を承諾した。

報告事項：

①2025年度事業報告：各担当理事から報告がなされた。

②2025年度公益目的支出計画実施報告：概ね計画通りに実行されていることが中山正子理事より報告された。また、計画書について木口京子監事から法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施状況を正しく示しているものと認める旨監査報告がなされた。

③2026年度事業計画及び予算：各担当理事から事業計画の説明が、中山正子理事から予算案について説明がなされた。

7. 支部長・委員長紹介

議事終了後、総会出席の支部長、委員会委員長の紹介があった。

8. UWAsia 総会について：大井理事から、引き続き同会場でUWAsia 総会が行われる旨報告がなされた。

9. 次期会員総会開催地について：茨城で開催することが報告された。

10. パトリシア募金について：移行法人後の活動継続にむけて、パトリシア募金を引き続き継続していきたい旨、説明がなされた。

以上をもって、第15回定時会員総会は閉会した。

2026年度総会を終えて

総会実行委員長 秋光正子

5月17日、KKRホテル東京においてJAUW 総会が開催されました。JAUW 創立80周年にも当たるため理事会と東京支部とで協働して企画・準備・会議運営に当たりました。前年9月長谷川会長はじめ担当する理事と東京支部長8名で総会ワーキンググループを立ち上げ、80周年記念講演会及び記念懇親会についての骨子を固めたのち、11月に実働隊として実行委員会を立ち上げました。実行委員は東京支部11名本部委員会5名理事10名総勢26名の体制で、役割分担に沿って準備を進めました。理事は定時会員総会、記念講演会、本部主催全国総会を、東京支部は記念懇親会全般を、さらに総会会場準備、受付等を分担しました。委員会は収益事業・親睦事業両委員会が研修旅行、広報委員会が記録、バザーは収益事業委員会が担当しました。当日会員の皆様には、90名を超える方々にご参加頂きました。加藤陽子氏の記念講演には一般の方々も含め99名が参加され、戦後日本の近代をたどる大変興味深いお話を伺いました。また記念懇親会では海野幹雄氏の語りと素晴らしいチェロの演奏で緊張していた心が癒されました。翌18日の東京名所廻りはUWAsia 総会出席の外国の方々を含め56名、好天に恵まれ一味違う楽しいツアーでした。会員の皆様にも印象に残る総会となったのではないかと思います。実行副委員長として片腕を担って下さった遠藤理事、鷺崎東京支部長お二人には、終始力強く支えていただき、実行委員の皆さまも全員一丸となって準備段階から着実に役割をこなして下さいました。関わられた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

役員および担当委員会・委員長一覧

	氏名	担当委員会（委員長）等
会長	長谷川 瑞穂	ウェブサイト管理委員会（長谷川瑞穂）
副会長	鈴木 千鶴子	企画委員会（鈴木千鶴子）
副会長	中山 正子	会員管理
総務	片岡 雅子	「注」役員選考委員会、会員拡大委員会、規定等検討特別委員会、公益目的支出計画に関する特別委員会が理事会の要請に基づき設置される
総務	濱松 若葉	
会計	渡部 由紀子	
財務	柏木 京子	
理事	城倉 純子	調査・研究（中道貞子）生涯学習（松村和子）
理事	今野 美智子	国内奨学（窪田憲子）社会福祉（遠藤理枝）科学研究奨励（田島節子）国際奨学（古山みゆき）海外研修助成（田島節子）次世代につなぐ会（宮下摩維子）
理事	山下 いつみ	文化交流（建部静代）国際ネットワーク（鈴木千鶴子）
理事	端本 和子	広報（穂田信子）
理事	松村 和子	親睦事業（植松ちどり）収益事業（藤谷文子）文化事業（鷺見八重子）
理事	遠藤 理枝	21支部
理事	岡本 美和	
監事	木口 京子	監査
監事	加納 孝代	

UWAsia との合同バスツアーに参加して

東京総会実行副委員長 鷺崎千春

定時総会を終えた翌日5月18日（月）、好天に恵まれUWAsiaと合同バスツアー「東京めぐり」が行われました。ザンビア、米国（日系3世）、ネパール、バングラデシュ、インド、セネガル、計19名、日本から37名の参加がありました。KKRホテル東京を9時半に出発、皇居、国会議事堂、東京タワーを眺め、ガイドさんの説明は逐一、大井CIR理事、穂田広報理事が英語に訳してUWAsiaのメンバーにお伝えします。JAUWは何と頼もしい団体でしょう！昭和天皇の還暦を記念して開園された北の丸公園、桜の名所千鳥ヶ淵、虎ノ門のイチョウ並木。イチョウは水分を多く含み燃えにくいので「火事と喧嘩は江戸の華」と言われた頃より植えられたそうです。1958年に完成した東京タワーは、当時日本で鉄が深刻に不足していたので、朝鮮戦争後に払い下げられた米軍の戦車を買取り、溶かして鉄骨の材料としてリサイクルしました。戦争の兵器として使われた鉄が平和のシンボルである電波塔の一部として生まれ変わった話は初めて聞いて心に残りました。

徳川将軍家の庭園であった浜離宮で下車、広く手入れの行き届いた庭園をゆっくり散策しました。両国国技館では折しも大相撲夏場所の開催中、車中から轢が沢山見られました。それから、あらゆる願いが叶うという強力なパワースポット浅草寺へ、煙を体にたきこめ厄払いをして、聖観世音菩薩が祀られている本堂の前でお賽銭を投じました。

そろそろお腹も空いてきて、ランチの場所東京スカイツリータウン・ソラマチへ向かいます。私たちのテーブルにネパールからいらした Nilanta Shakya さんが入ってくださ

り、遠藤実行副委員長と金沢の笠間会員が同席されます。「ネパールはヒマラヤを背景に北は中国、南はインド、西はパキスタン、東はバングラデシュとブータンと5つもの国と国境を接します」地図を描きながらニランタさんのお話です。高校から大学に行く女性は男性の3分の1とのこと、ネパールからの会員は、モンテッソーリ教育に大変関心があって、21日に町田の聖アンナ子どもの家を、22日に千葉大学附属小学校・中学校を、2グループに分かれて訪ねるそうです。後日、とても楽しい時間を過ごされたと聞きました。バスツアーを細やかにお世話くださった親睦事業委員会、収益事業委員会、国際ネットワーク委員会の皆さま、本当にありがとうございました。



東京タワー（高橋令子会員撮影）



Photo by Irene Gashu

2026年度支部長会報告

支部担当理事 岡本美和

5月16日（土）午後、18支部の支部長の出席のもと支部長会が開催されました。会長挨拶、第15回定時会員総会の議題についての説明があった後、国内奨学委員会、会員委員会から支部長の業務に必要なお知らせがありました。後半は、支部の課題についての協議を行いました。支部長3名と理事2名でグループを作り、自由に意見交換を行いました。内容の一部を紹介します。

【活動を担う人材の不足】

通常の活動に参加できる人が少なく、固定化している（複数）／働いている現役世代が多く、イベントに誘いにくい／役員だけで活動している状態

【会員数の確保】

現役世代では、自分の仕事にメリットがあると入会しやすい（政治家など）／奨学生や応募者に例会で発表を

願いする／それぞれが入会したきっかけがあるはずなので、その実例をシェアしてはどうか
大学院生など会費を抑えた学生会員の制度を作ってはどうか／賛助会員ももっと広く受け入れたい／今仕事で参加できない人をやめさせないことも大切／楽しいだけでなく、JAUWのミッションを行えるイベントがしっかりとあることが重要／この会の説明をしっかりとしたいが意外と難しい

【移行法人終了後の支部】

将来について話題にしているが、私たちが情報をきちんと把握できていないことで進まず、悪循環となっている

支部長の皆様の積極的な参加とご協力により、実りある支部長会となりましたことに感謝申し上げます。



世界の、アジアの中で、JAUW と自分を見つめた3日間

企画担当副会長・国際ネットワーク委員長 鈴木千鶴子

大学女性協会が1954年から加盟するGWI (IIFUW) は、世界45カ国の加盟団体：NFAsを地理的・文化的・歴史的に共通性の高い同地域ごとに5つの Regional Groups にグループ化し、NFAs 間の交流の促進を図っている。

アジア地域グループ：UWA は、2012年にJAUW から穂田信子 CIR と故岡崎優子委員、近藤みち子委員ら4名が出席したタイのバンコクでの第9回総会以来、休会状態だったが、コロナ禍を受けGWが2020年初頭より活発に開始したオンライン会合でアジアのNFAsから役員や会員が顔を合わせる機会が増えたことを機に、インドの Ranjana Banerjee 会長を筆頭に Meera Bondre らの熱心な働きかけにより、2021年5月にUWAがインド・バングラデシュ・香港・日本・韓国・ネパール・パキスタン・シンガポール・タイの9つのNFAsにより再結成され、名称をUWAsia（仮訳：アジア大学女性協会連盟）として再出発した。オンラインセミナーなどを重ね2024年3月にはインドのブネでUWAsia 第10回総会を開催、韓国を除く8カ国からビデオ

参加を含めて発表があり、盛会であった。

2024年9月、国名順でインドからJAUWが向こう3年間の議長国を引き継ぎ、期間中の総会開催が使命となった。東京で開催する2026年5月の全国総会の研修旅行に海外参加者も組み込むことで良い交流を図りたいとして、収益・親睦両事業委員会に穂田理事が協力を依頼、第11回 UWAsia 総会を全国総会に続けて東京で開催することを決めた。

こうして2025年初頭より大井恭子準備委員長の下、国際ネットワーク委員はじめ会員の総力を結集した準備が始まった。当初の発表・参加申込者に自身と家族の疾病怪我やビザ取得困難、日程と資金調達困難等によるかなりのキャンセルが出たものの、海外6カ国より22名、日本33名の参加を得て、何より無事に終了できたことは幸いであった。苦労を遥かに上回る対面による国際的な会合の成果は、テーマ「ウェルビーイングと環境」への私たちの考察をどれ程高めたか計り知れない。そして、世界の女性たちの多様で且つ共通の経験と想いを共有できた感動は、何にも代え難い。

第11回 UWAsia 総会を振り返って

CIR・UWAsia 準備委員会委員長 大井恭子

第11回 UWAsia 総会が5月18日から20日にわたり開催され無事に終了しました。まず初日の18日は全国総会後の研修旅行に、親睦事業委員会・収益事業委員会の方々のご厚意で相乗する形でTokyo Bus TourにUWAsiaメンバーも参加させていただきました。日本が初めての参加者もいらして、これは大変好評でした。夕方からは歓迎会ということで、外国からの参加者及び大学女性協会の会員の紹介がされました。出し物としては、「日本に関するクイズ」、そして「Sakura, Sakura」の合唱により、おもてなしの気持ちを伝えることができたかと思います。

実質的な会議は19日からで、長谷川瑞穂会長による開会のご挨拶から始まり、続く一原雅子会員による基調講演により本格的な会議が展開しました。今回の会議では9件の研究発表が4つのテーマ毎にまとめられて、19, 20の二日間に亘って発表され、各発表とも質疑応答が大変活発になされました。それらのテーマは、①Health、②Environment/

Ecology、③ Gender、そして、④ Education です。

19日の昼からは、UWAsia総会が行われ、GWIのPatricia Patton 会長のビデオメッセージが流され、そして、副会長の Gisèle Scanlon のスピーチがご本人に代わり読み上げられました。続いて、出席している各 NFA から活動報告がされ、最後に次期議長国であるネパールから次の UWAsia 総会へのお誘いのことばが述べられました。

最後のプログラムは、今井由里さんとお弟子さんによる津軽三味線の演奏と解説でした。音楽も踊りも大変盛り上がり、この会を締めるのには大変ふさわしい催しものとなりました。集合写真を撮り、次の再会に期待を馳せ、すべての行事は終了しました。

今回の企画は国際ネットワーク委員会の総力をあげて行われたもので、委員の皆様おひとりおひとりのご尽力、そして参加された方々に心より感謝申し上げます。



一原雅子会員の基調講演「市民主導による法創造」に聞き入る



バスツアーに始まる全プログラムを終え、ネパールでの再会を誓う

第28回大学女性協会 守田科学研究奨励賞授賞式

科学研究奨励委員会委員長 田島 節子

第28回守田科学研究奨励賞授賞式が6月7日にアルカディア市ヶ谷を会場としてとり行われた。今回の授賞者は、東北大学薬学研究科・薬学部准教授の小川亜希子さん（研究分野：発生・再生エピゲノム動態生物学）と東京大学物性研究所凝縮系研究部門准教授の高木里奈さん（研究分野：物性物理学）のお二人である。

小川さんは2012年に東京大学医学部を卒業後、熊本大学大学院医学教育部へ進学され、2019年に博士（医学）を取得された。東北大学加齢医学研究所助教を経て、2025年に現職に着任された。受賞研究課題は「修飾ヌクレオシドが駆動する細胞内外コミュニケーションの新機構」である。

高木里奈さんは2009年に東京大学工学部物理工学科を卒業後、同大学大学院工学系研究科物理工学専攻に進学し、2014年に博士（工学）を取得された。理化学研究所の博士研究員、東京大学大学院工学系研究科助教を経て、2023年4月に現職に着任された。受賞研究課題は「相関電子が拓く反強磁性体の機能物性開拓」である。

授賞式に引き続いて行われた受賞講演で、小川さんはご自身の研究歴を紹介された後、修飾ヌクレオシドについて専門外の参加者にもわかりやすく丁寧な説明をされ、最後に、今後の研究展開や医療応用について話された。高木さんは、相関電子とはどのようなものか、反強磁性体の応用にどのような意義があるかについて、新物質開拓の苦労なども交えて、講演された。

授賞式に続き、若手女性科学者海外研修助成事業報告として、第3回助成授与者の永濱藍さんと飯田史織さんに研修の報告をしていただいた。飯田さんは、ドイツマックスプランク分子生命医学研究所で引き続き研究を継続されて

いるため、ドイツからのオンライン参加となった。内容については、お二人の報告記事をご参照いただきたい。

式典・受賞講演に続いて、祝賀パーティが和やかな雰囲気の中で行われ、参加者間の交流が深められた。

第29回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

趣 旨：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

対 象：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2027年4月1日現在）の女性科学者を対象とします*。

*出産・育児・介護等による休業期間等がある場合はこの期間を年齢から除外します。対象者は根拠を明記してください。

授賞件数：年2件以内。賞状および副賞50万円を贈呈します。

提出書類 応募書類はメール添付で提出していただきます。

1. 研究題目とその概要（A4判1頁～1.5頁程度）、今後の展望および抱負（A4判0.5頁程度）（全体でA4判2頁以内）
2. 履歴書
記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所、電話、所属機関（住所、電話）・職名、e-mail、専門分野、学位、学歴（高校卒から）、職歴
3. 研究業績リスト（主要論文に○を付記）
記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
4. 主要論文5編以内（ファイル名に研究業績リストの通し番号を入れて下さい）
5. 推薦状（推薦者から直接別メールで送付）

【送付先】 morita_prize@jauw.org

【件名 (subject)】「第29回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募書類」

*推薦状以外（1, 2, 3, 4）を各々pdf化して1つのフォルダーに収めzip ファイルとする。

フォルダー名：応募者名

zip ファイルの容量が5MB 以下：メールに添付で送付、

zip ファイルの容量が5MB を超える場合：ファイル便で送付

*推薦状：推薦者から直接 morita_prize@jauw.org 宛に送付

件名 (subject):「第29回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募（推薦状）」

ファイル名：被推薦者名

上記の提出方法について、不都合がある方はメールにてお問い合わせください。

応募締切日：2026年11月16日（月）（必着）

選考結果の通知：2027年3月末

書類送付先・問合せ e-mail: morita_prize@jauw.org

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地 6 パトリシア信濃町テラス101

Tel : 03-3358-2882 Fax : 03-3358-2889

<https://www.jauw.org/scholarship-information/moritakagaku/>



修飾ヌクレオシドが駆動する 細胞内外コミュニケーションの新機構

東北大学大学院薬学研究科・薬学部
准教授
小川亜希子
おがわ あきこ



RNA 修飾は1951年に最初の修飾としてシュードウリジンが発見されて以来、現在までに150種類近くが同定されています。近年の計測技術の飛躍的发展により、細胞内における RNA 修飾が遺伝子発現を制御する仕組みについて、解明が進んできました。しかし、RNA が分解された後の代謝産物である「修飾ヌクレオシド」がどのような運命をたどり、生理機能を持つのかについては、これまでほとんど注目されてきませんでした。私は、RNA 修飾機構が多様である一方でその脱修飾酵素が限られていることに着目し、「RNAは代謝後も修飾を保持したヌクレオシドとして存在し、独自の生理活性を示すのではないか」という仮説を立て、その検証に取り組んできました。

私は眼科医として難治眼疾患の病態研究を行う中で、眼内に豊富に存在する修飾ヌクレオシドの中に非常に強い生理活性を持つ m6A (N6-methyladenosine) を同定したことをきっかけに、RNA修飾の奥深さに魅了され、今日まで研究に邁進してまいりました。独自に最適化した高感度な網羅的解析手法を用いることで、細胞外へ分泌されたこの m6Aが、従来の内在性リガンドとされていたアデノシンの10倍以上の活性で受容体を作動させる、新たな生理活性因子であることを報告しました。これは、核酸代謝物が単なる最終分解産物ではなく、能動的なシグナル伝達を担うという新たな知見をもたらす成果となりました。

さらに、細胞毒性を有する修飾ヌクレオシドを解毒する酵素 ADK および ADAL を同定し、その代謝経路がリソソームの恒常性や糖・脂質代謝の維持に不可欠であることを解明しました。現在は、これら修飾ヌクレオシドの代謝異常が病態を惹起する「Modified Nucleopathy (修飾ヌクレオパシー)」という新しい概念を提唱し、眼疾患やがん、加齢に伴う疾患におけるバイオマーカーとしての活用や、新たな治療戦略の構築を目指しております。

最後になりますが、このたび第28回守田科学研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。日頃よりご指導いただいている先生方、支えてくださる研究室の皆様、家族、そして大学女性協会関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

相関電子が拓く 反強磁性体の機能物性の開拓

東京大学物性研究所
准教授
高木 里奈
たかぎ りな



このたびは守田科学研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。大学女性協会の皆様に、心より御礼申し上げます。

磁石は、情報記録やモーターなど、私たちの生活を支えるさまざまな場面で利用されています。磁石の性質は、電子のスピンに由来

する磁気モーメントに起因しています。磁気モーメントが平行に整列した強磁性体では磁化が生じます。現在の磁気記憶素子では、この磁化の向きを利用して情報が保持されています。また、この磁気情報は電氣的に読み出すことができ、強磁性体では磁化に比例したホール電圧が生じるため、磁気状態を電気信号として検出することが可能です。

一方、隣り合う磁気モーメントが逆向きに並ぶ反強磁性体は、大きな磁化を持たないため、こうした機能は期待されてきませんでした。しかし、磁性体の多くは反強磁性体であり、漏れ磁場がなく高密度化に有利であることから、反強磁性体において磁化を使わずに新しい機能を生み出すことは重要な課題となっています。

私はこの課題に対し、電子同士の強い相互作用、結晶の対称性、そしてトポロジという観点から研究を進めてきました。まず、分子性導体において、分子内の電子移動が反強磁性秩序を生み出す仕組みを明らかにしました。さらに、電子スピンの渦状に配列した「スキルミオン」と呼ばれる磁気構造に着目し、従来より高密度で大きな電磁応答を示す物質群を開拓しました。加えて、近年提唱された「交替磁性」という新しい概念に基づき、反強磁性体でありながら強磁性体と同様のホール効果を示すことを室温において観測し、情報の保持と電氣的な読み出しが可能であることを示しました。

これらの研究は、磁化がなければ有用な機能は生じないと考えられてきた従来の磁性研究に新たな視点を与えるものです。今後も、低消費電力かつ高密度な次世代情報デバイスの実現に向けて、新しいスピン物性の解明や磁性材料の開拓に取り組んでまいります。

最後に、日頃よりご指導いただいている先生方、共同研究者や研究室の皆様、そして家族に深く感謝致します。

過去を振り返る時、歴史が生まれる—戦後80年の意味と日本の近代

東京支部 加納孝代



大学女性協会80周年記念講演会において東京大学名誉教授の加藤陽子氏が上記のテーマで語られました。以下その要約です。

日本は1945年に敗戦を経験、なぜあのような戦争に入ってしまったのか、その過ちをどう直してゆけばよいのか、との反省に立って戦後を歩み出しました。

のちに東京大学総長になる南原繁は、社会格差を放置して教育を軽視したことが戦前の社会を歪めた、今後は女子教育改革も含めて社会を作り変えてゆくべきだと考えました。これは当時存在していた敗戦についての受け止め方の代表例です。

1946年の大学婦人協会（当時の名称）の設立もその流れの中にあります。戦前に教育を受けた、社会階層的には上層（「ハイブロー」といわれる）の人々が戦後の日本社会の発展を主導しました。その方向で女性の社会的地位向上の到達点となったのが、社会党委員長も務めた土井たか子氏の1993年における衆議院議長就任です。

しかし90年代後半から日本はバックラッシュの時代に入り、教育や文化の大衆化という異なる方向に進みます。2025年の高市早苗氏の、初の女性内閣総理大臣就任はその帰結のように見えます。

2015年に安倍晋三首相（当時）は戦後70年「談話」を發し、その中で日本が戦争を始めた理由を次のように説明しました。「1930年代の日本は欧米による経済のブロック化で大打撃を受け、孤立感を深め、行き詰まった結果、力の行使によって打開しようと考えた。その時、国内の政治システム（明治憲法）はその歯止めたり得なかった」と。なぜ歯止めたり得なかったのか、との問いはありません。

しかし歴史研究者の分析によれば、たとえば1935年の日本の綿紡績業は英国を抜くほど力をもっていたし、政府や議会や政党や宮中勢力・元老も、困難な状況下でも政策の統合を図る可能性はありました。安倍談話の10年後に出た2025年の石破茂首相（当時）の「所感」は、新しい学術動向を踏まえて明治憲法についても考察を加えた点で有意義です。人間は間違っただけで説明されていると、似たようなことが起こったときに見過すからです。

私たちが歴史を振り返る理由は、夏目漱石も野呂栄太郎も明仁上皇も言われるとおり、歴史の事実に基づき、未来に備えるためです。大逆事件以来、治安維持法、血盟団事件、5.15事件、2.26事件テロなど、戦前期日本の分岐点となった歴史的事実をもっと解明するべきだと思います。私は自著の『満州事変から日中戦争へ』（岩波新書）、『それでも日本人は「戦争」を選んだ』（新潮文庫）、『戦争まで』（朝日出版社）などでその材料を提供しました。

「賢い人が良い時代を作り、良い時代が賢くない人を作り、賢くない人が悪い時代をつくり…」という宿命論に抵抗（あらが）うことが、歴史の教訓であると思います。

80周年記念懇親会

東京支部 端本和子

5月17日（日）17:00～19:30、KKR ホテル東京10階瑞宝の間に於いて80周年記念懇親会が開催されました。

司会の遠藤理枝実行副委員長の開会の言葉、長谷川瑞穂会長の挨拶から始まりました。つづいて、来賓の内閣府男女共同参画岡田恵子局長よりのご祝辞を牧島悠美子理事の代読で拝聴し、記念懇親会が始まりました。また、この10年間の中村久留美、鷲見八重子、加納孝代、岩村道子元、前会長がお一人ずつご挨拶をされました。

アトラクションでは、海野幹夫さんによる「無伴奏 チェロの夕べ〜チェロ独奏とお話」、エルガー「愛の挨拶」が。80周年記念懇親会に相応しい格調高い時間を持つことができたことは本当に喜ばしいことでした。その後は岩村前会長からの乾杯の音頭、KKRホテル東京の心づくしのおいし

いディナー。席順はくじを引いて、新しい出会いのテーブル。お話は和気あいあいと進みます。

そして、参加の各支部の紹介、次期総会開催の茨城支部長挨拶とつづき、最後は森川淳子東京支部長の感謝の言葉で閉会となりました。大学女性協会らしい和やかな80周年記念懇親会でした。



海野さん演奏風景



左から中村元会長 鷲見元会長 加納元会長 岩村前会長



チェロに聞き入る会場風景

全国総会報告

5月17日（日）、午後の加藤陽子東京大学名誉教授の80周年記念講演会に続き、休憩をはさんで15時30分より全国総会が開催されました。今年は大学女性協会創立80周年にあたることから、旧理事有志が作成した80周年記念誌『HERitage 80』を会場スクリーンに投影し、同時に参加者の皆さまにも手元の冊子をご覧いただきながら説明がなされました。

71ページに及ぶ記念誌を1ページずつ映し出し、創立以来の歩み、この10年間の活動、そしてコロナ禍における取り組みを、99名の会員とともに振り返りました。約1時間の時間でしたが、懐かしい出来事や当時の活動を思い起こしながら、あっという間に感じられるひとときとなりました。オンライン会議の導入など、この10年の変化の大きさにも改めて気づかされました。

また、この記念誌は国際ネットワーク委員会の協力を得てバイリンガルで刊行されており、本会の力とつながりの広さを実感する機会ともなりました。

* 『HERitage80』は会報288号とともに全会員へお届けいたします。



全国総会



会長による新理事紹介



総会会場風景

懇親会



懇親会出席者全員で海野幹夫さん、加藤陽子さんを囲んで



岩村道子前会長による 乾杯の音頭

2025年度国際奨学生報告会

国際奨学委員長

古山みゆき

この奨学金制度の目的は主に二つです。それは、女性研究者の育成と留学生の出身国と日本との双方向的な国際理解を通じて世界の友好と平和に寄与することです。これらの目的を踏まえて、国際奨学生の報告会が開催されました。

2025年度の国際奨学生の報告会は、2026年の1月22日と3月5日の2回、今井館聖書講堂で開催されました。第1回はアルゼンチンの留学生、ペレス＝クーパーさんと、京都大学大学院での研究「膠芽腫に対する個別化治療戦略」についてでした。第2回の研究報告は、メキシコからの留学生、バルデス＝ボカネグラさんと、広島修道大学での研究「自動車産業における競争力およびパフォーマンス向上のための戦略」についてでした。発表形式はパワーポイントが使われ、参加者はズームとリアルの方法で出席しました。おふたりの

研究成果は学術的に大きな貢献をなすと思われます。

彼らの出身国と日本との共通の課題である女子教育の現況をそれぞれが分析し、質疑応答も活発でした。ペレス＝クーパーさんは、「大学まで無償教育が浸透し、女性が学生の約6割を占めているが、理系分野の少なさや研究職上位層での低比率が課題である。政治変化や予算削減により、平等政策の維持が危ぶまれている」と教育制度と社会構造を中心に発表されました。バルデス＝ボカネグラさんは、「女性は高等教育で多数派ですが、伝統的なケア役割の負担が重く、睡眠不足や慢性的なストレスに直面している。改善には時間管理だけでなく、政府規制の見直しや支援体制の構築など構造的変革が不可欠である」と女性の家庭負担と精神衛生的課題を示されました。



ペレス＝クーパーさん（前列左側から二人目）と参加者の方々



バルデス＝ボカネグラさん（右側）と参加者の方々

CSW70報告

CSW70に参加して学んだこと

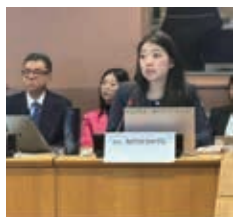
国際ネットワーク委員 加藤澄恵

この度は、CSW70という貴重な機会に参加させていただき、誠にありがとうございました。CSW70では、「すべての女性と女兒の司法へのアクセス」をテーマに各国の議論が行われました。「教育は司法への第一歩」という提言のもと、STEM教育やAIの倫理的ガバナンス、女性と女兒のデジタル教育推進の重要性を学び、新興技術が平等と公正を支える社会づくりの必要性を実感しました。

トークニズムを超えたユースの参画とレジリエンス 愛知支部長 稲葉みどり

ニューヨークで開催されたCSW70にJAUW代表として参加させていただきました。今大会では、若者を単なる「飾り」としない「トークニズム（Tokenism）」の超克が大きな焦点となり、ユースの実質的な参画（Meaningful Engagement）をいかに担保するかについて多角的な研鑽を積みしました。また、地域社会のレジリエンス（回復力）強化における女性の主体的な役割についても深い議論が交わされました。「ポスト北京宣言30周年」に向け、世代を超えた連帯で権利の逆風（Backlash）に抗う国際社会の強い意志を体感できたのは、大きな収穫です。

最後になりましたが、勉強会から温かいご支援を賜りました皆様に、心より深く感謝申し上げます。



サイドイベントで発表する宮下会員

司法へのアクセスと女性のエンパワーメント 次世代につなぐ会 宮下摩維子

CSW70若手派遣者枠で派遣していただき、研究報告の貴重な機会をいただきましたこと、深く御礼申し上げます。初めてCSWに参加し、国連に集う世界の女性たちに独特の強い当事者意識と高い熱量に大きな感銘を受けました。そして、それと同時に今回の優先テーマである「司法へのアクセス」において日本が諸外国と比較しても大きく後れを取っている現状に危機感を覚えています。司法へのアクセス強化のためには、ITの活用や司法扶助制度の充実など種々の観点から取り組む必要がありますが、女性の経済力の強化をはじめとするエンパワーメントが重要であると改めて感じました。

研究者として客観的な視点を保ちつつ、JAUWなど市民活動を通じて社会に貢献できるよう努めていきたいとの思いを新たに数日間となりました。



「次世代につなぐ会」3月20日 報告

京都支部
一原 雅子

2026年3月20日（金）12-13時に、次世代につなぐ会の第10回月例会として、「女性研究者をとりまく研究環境：海外の状況」と題するオンラインランチセミナーを実施しました。講演は、アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるゴールデンゲート大学より Benedetta Faedi Duramy 先生（国際ビジネス法・LLM専攻学科長）をお招きし、標題に関する米国および世界の状況についてお話をいただきました。ご報告の内容は詳細なデータに基づいた学術的な分析をもとに、時間をかけて女性研究者の地位向上に向けたあゆみがあったこと、それでもなお現在もいわゆるガラスの天井問題や、昇進に伴う女性の割合低下といった課題が未だ十分に解決されていない現状が分かりやすく紹介されました。

今回の講演依頼に当たっては、事前に次世代につなぐ会の委員より、当日聞いてみたい内容について複数のリクエストを出しあい、それを講演者に事前に伝えていたところ、当日はそのすべてに丁寧な回答をいただけて、とても誠実な対応をいただくことができました。日本の現状はご報告いただいた海外の状況に比べるとまだまだ女性研究者

が置かれる状況は厳しいものですが、時間がかかってもらったゆめ努力によって状況を好転させ得るという希望を与えられる講義でした。司会の不手際もあり、時差計算の誤りにより催行日時が急遽変更となったにもかかわらず、ご参加くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。今後も引き続き、皆様にとって意義ある催しを企画してまいります。



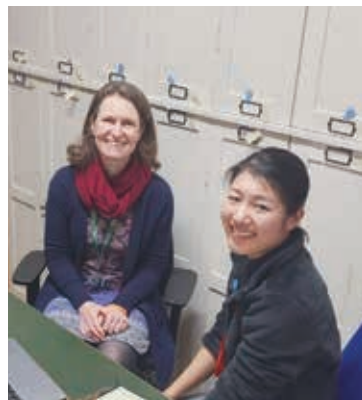
第3回若手女性科学者海外研修助成事業報告

国立科学博物館植物研究部研究員

ながはまあい
永濱藍

私は、2025年11月から約2ヶ月、英国キュー王立植物園に滞在し、①東南アジア産植物の標本調査、および②植物標本室の管理・運営研修に取り組みました。キューは、世界最大級となる約850万点の押し葉標本コレクションを収蔵し、東南アジア産植物のタイプ標本（学名の基準となった標本）も数多く保管しています。また、植物分類学分野の第一線で活躍する研究者が多数在籍し、国内外から多くの研究者が訪れる研究拠点でもあります。

①の標本調査では、受入研究者である Dr. Gemma Bramley とのディスカッションを通して、文献の読み解き方や植物チェックリスト作成の手順などについて学ぶことができました。②の研修では、東南アジア産植物コレクションを担当する Alison Moore のもとで、チームの定例会議や日常業務に参加し、膨大な標本コレクションの管理・運営について学びました。これらを通して、何ものにも代え



Dr. Gemma Bramley と標本室にて

がたい大変充実した時間を過ごすことができました。

帰国後には、Gemma が来日する機会もあり、再会して共同研究の議論を続けることができました。このような貴重な機会をいただけたことに深く感謝するとともに、今回の経験を今後の研究活動に活かしていきたいと思っています。

国立遺伝学研究所ゲノムダイナミクス
研究室特任研究員

いいだしおり
飯田史織

海外研修助成を受け、ドイツ・マックスプランク分子生物医学研究所 Wickström 研究室に2025年10月から半年滞在しました。2026年4月からは引き続き同研究室で学振海外特別研究員として滞在しています。

この研究室では、細胞にかかる力や細胞の周りのかたさなどを、細胞がどう受け取り、応答するかを研究しています。研究対象はヒト iPS 細胞など多能性幹細胞、マウスの上皮組織、毛包のオルガノイド（ミニ臓器）など多岐に渡ります。私は、多能性幹細胞を用いて、細胞のかたさと細胞の運命の変わりやすさの関係を調べています。

研究室メンバーの七割は女性、国籍も多様です。研究室メンバーはみんなとても協力的です。特に、研究室内で発表をした時のフィードバックのポジティブさに驚きました。その人の背景や個性を大事にし、研究室というチームとして、いい雰囲気を作って研究を前に進めようとしている、という印象を受けました。

海外研修助成事業は、ドイツでの新生活を始める上で大きな助けとなりました。深く感謝申し上げます。研究の進め方や研究室の雰囲気作りなど、日本とやり方が大きく違うところがたくさんあります。色々なことを吸収して、今後に生かせるように頑張ります。



研究所のあるミュンスターでのクリスマスマーケットにて

2026年度公開シンポジウムのご案内

テーマ「ウェルビーイングと環境
～ユースとジェンダーの視点から～」

企画委員長 鈴木千鶴子

2024年度から取り組んできた「ウェルビーイングと環境」。そのテーマに関わる現実社会・世界は益々テーマの重大さを誇示するかのよう進行しています。対して私たちは微力ながら、これまでの実績を糧に「ユースとジェンダーの視点から」をサブテーマに公開シンポジウムを企画します。先ず、「環境」の捉え方について、科学的枠組み「プラネタリーバウンダリー（地球の限界）」で整理します。次に、プラネタリーバウンダリーを基に生まれた「地球上のあらゆる生命のウェルビーイングの実現を目指す「プラネタリーヘルス」」について、國井修氏による基調講演で理解を深めます。具体的な課題について、「ユース」と「ジェンダー」の視点を軸に、パネルディスカッションで検討します。今年度は調査・研究委員会との協働が叶います。10月17日（土）エッサム神田と Zoom で開催。

(一社)大学女性協会80周年記念募金パトリシア寄付者ご芳名

期間：2026年2月1日～2026年6月30日

寄付者人数：13名

寄付金額：382,500円

上記期間中の寄付者ご芳名（敬称略・支部別50音順）
 （茨城）飯田久子 （東京）阿部幸子、伊能美智子、遠藤理枝、
 窪田憲子、今野美智子、嶋田君枝、庄司ヨシ、村木晴子
 （長野）丸山正子 （奈良）橋本慶子 （岡山）片岡雅子
 （賛助）高橋政春

全体期間：2021年4月30日～2026年6月30日

寄付者延人数：417名

寄付総額：5,916,600円

寄付金の振込先口座

銀行：ゆうちょ銀行

名義：一般社団法人 大学女性協会

① 払込取扱票（郵便振替）で行う場合

口座記号及び口座番号：00130-0-587701

※パトリシア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、
 そのまま使用可能です。

② 他行から振込の場合

支店名：〇一九店

口座種類及び口座番号：当座 587701

※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

理事会から

- ▶ 5月17日（日）KKR ホテル東京で第15回定時会員総会・全国総会・80周年記念行事を無事に終えることができました。詳しくは今号に掲載してあります。
- ▶ 第2回理事会が6月6日（土）に事務所会議室にて理事・監事全員で開催されました。2026年度の活動がいよいよ始動します。よろしくお願いいたします。
- ▶ 2027年度の総会は5月15日（土）に水戸市（茨城県）にて開催いたします。
- ▶ 事務所の夏季休業期間：8月10日（月）～ 8月14日（金）

2026年度 国内奨学生募集要項 抄

一般社団法人 大学女性協会 2026年度国内奨学生募集要項

今年度も大学女性協会国内奨学生の募集を以下のように行います。

I 応募資格

一般奨学生 大学院に在籍する女子学生で、学業・研究・人物ともに優れた者。

社会福祉奨学生 大学の学部 に在籍一年以上または大学院に在籍する女子学生で、身体に障害があり、かつ学業・研究・人物ともに優れた者。身体障害者手帳の交付を受けていること。

安井医学奨学生 大学院に在籍する女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業・研究・人物ともに優れた者。

II 支給額および募集人数

一般奨学生 大学院生 30万円 5名

社会福祉奨学生 学部生 20万円

大学院生 30万円 学部生、大学院生
 合わせて2名

安井医学奨学生 大学院生 30万円 1名

- *備考 ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
 ・奨学金は1回限りである。

III 応募方法および締切り

応募方法：応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。

締 切 り：2026年8月25日（火）（必着）

大学は2026年8月25日（火）（必着）までに、当協会支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を一括して提出すること

なお、応募書類その他の詳細につきましては次の URL または QR コードをご参照ください。

募集要項URL: <https://bitly.onl/YCCjS>

募集要項 QR コード



各奨学金詳細 URL: <https://www.jauw.org/scholarship-information/>

新入会員 理事会承認 2026年3月～6月

東京支部 大口 裕美	東京支部 田中 富士美
神戸支部 Wilson 恵	神戸支部 植野 玲子
神戸支部 大濱 セイ子	神戸支部 山田 恵子

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101

電 話 03-3358-2882

F A X 03-3358-2889

<https://www.jauw.org>E-mail: jauw@jauw.org

発行人 長谷川 瑞穂

編集責任者 穂田 信子

発行日 2026年7月27日